

News release (日本語版仮訳)

スイス・リー、業界有数の資本水準と堅調な投資実績で新型コロナウイルスの感染拡大に対応

- スイス・リー・グループは、新型コロナウイルスの影響(主に損害再保険事業の税引前費用4億7,600万米ドル)により2億2,500万米ドルの純損失を計上
- 損害再保険事業(P&C Re)は、新型コロナウイルス関連の損失を受けながらも6,100万米ドルの純利益を計上
- 生命・医療再保険事業(L&H Re)の純利益は2億9,900万米ドル、株主資本利益率(ROE)は15.8%
- コーポレート・ソリューションズは、新型コロナウイルス関連の損失の影響を受け、1億6,700万米ドルの純損失を計上
- ライフ・キャピタルは、Phoenix Group Holdings plcの株価の時価評価調整を反映して、2億6,100万米ドルの純損失を計上
- 投資収益率(ROI)は3.2%、直接利回りは2.5%と堅調
- 2020年4月の損害再保険事業の保険契約更改状況は好調。保険料収入は4%増、名目保険料率は8%の改善
- 業界有数の資本水準を維持し、2020年3月31日時点におけるスイス・リー・グループのスイス・ソルベンシー・テスト(SST)比率は200%を大幅に上回る

チューリッヒ、2020年4月30日 – スイス・リーは、2020年第1四半期の純損失を2億2,500万米ドルと発表しました。今四半期の損失は、新型コロナウイルス危機の引受成績に対する影響(4億7,600万米ドル)、および投資成績に対する影響(正味3億米ドル)を反映したものです。また、第1四半期の業績は、ReAssure社の売却完了時にスイス・リーが受領予定のPhoenix Group Holdings plcの株式時価評価によるマイナスの影響も受けました。スイス・リーは業界有数の資本水準を維持しており、2020年3月31日時点におけるグループのSST比率は200%を大幅に上回っています。

スイス・リー・グループの最高経営責任者であるクリスチャン・ムーメンターラーは次のように述べています。「新型コロナウイルスの爆発的流行は、世界中の社会、政府および企業に大きな影響を与えています。愛する人を失った方々や危機による被害を受けている方々に心からお見舞いを申し上げます。当社はこうした困難な時代に直面する中で、世界のレジリエンス向上を目指すというスイス・リーのビジョンを引き続き追求する決意を新たにしました。当社は、保険金の支払い、契約の更改、知識の共有およびイノベーションを通じてこのビジョンを日々追求しています。この危機によってスイス・リーの業績は財務的影響を受けたものの、当社の事業は強靱性を維持してい

Media Relations,
Zurich
Telephone +41 43 285 7171

New York
Telephone +1 914 828 6511

Singapore
Telephone +65 6232 3302

Investor Relations,
Zurich
Telephone +41 43 285 4444

Swiss Re Ltd
Mythenquai 50/60
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121

www.swissre.com
 @SwissRe

ます。当社は業界有数の資本水準を保持しており、お客様の強力なパートナーとしてこの難局を乗り切ってまいります。」

資産運用部門は市場の混乱をうまく乗り切る

市場の混乱により、米国会計基準(US GAAP)ベースで約 3 億米ドルの正味評価損が発生しました。総評価損はこれを上回っていたものの、クレジットと株式投資のヘッジによる利益約 6 億 5,000 万米ドルによって大幅にくい止められました。さらに、高品質なポートフォリオと第 1 四半期における積極的な経営判断によって、評価損を 2,000 万米ドル未満に抑えることができました。当期のグループの ROI は 3.2%でした。異例の低利回り環境を反映して、直接利回りは 2.5%まで低下しました。

株主資本は、2019 年末時点の 293 億米ドルから、約 280 億米ドルに減少しました。その主な要因は、未実現純損失の 6 億 5,500 万米ドルです。スイス・リーの簿価は、第 1 四半期末時点で 1 株当たり 96.82 米ドルでした。

スイス・リー・グループの最高財務責任者であるジョン・デイシーは次のように述べています。「当社は、近年で最大規模の下落となった相場急落に先立ち、第 1 四半期にバランス・シートとヘッジ投資ポジションを守るための大規模な措置を適時に実行しました。これにより、当社は市場の混乱によるマイナスの影響を大きく軽減することができました。当社ポートフォリオの減損が小さいことは、ポートフォリオの質が高いことによります。相場の乱高下が続いているため、当社はこの状況がもたらすさまざまな課題を引き続き注視してまいります。」

損害再保険事業の純利益は 6,100 万米ドル、新型コロナウイルスの影響を除いた ROE は 13.2%

第 1 四半期の損害再保険事業の純利益は 6,100 万米ドルとなり、2019 年同期の 1,300 万米ドルを上回りました。当部門は、新型コロナウイルスと自然災害の関連費用を計上したにもかかわらず、黒字を維持しました。新型コロナウイルス危機による業績への影響は 2 億 5,300 万米ドルとなりました。これは主に、イベントの中止や延期により予想される保険金請求に備えて、準備金を積み立てたことによるものです。大規模自然災害による損失は 3 億 9,700 万米ドルとなり、当四半期の予想損失額をやや上回りました。これは、当部門のオーストラリアにおける事業展開の規模が大きいことを反映したものです。オーストラリアでは、大規模な山火事(2019 年に準備金を積み立て済み)に加え、雹(ひょう)と大規模な洪水によって損失が悪化しました。一方、欧州では例年の冬の嵐による損失が増加しました。

損害再保険事業の正味既経過保険料は、12%増の 47 億米ドルと堅調な伸びを達成しました。年率 ROE は、2019 年同期の 0.6%に対し、当四半期は 3.0%となりました。新型コロナウイルスによる影響を除いた ROE は 13.2%でした。コンバインド・レシオは 110.8%となりました。当部門は、新型コロナウイルスに関連する保険金支払を除いた 2020 年通期の平準化

調整後¹の予想コンバインド・レシオ 97%の達成に向けて順調に進んでいます。

損害再保険事業の4月更改は、料率の上昇(特に日本)に支えられて堅調
新型コロナウイルス危機による困難にも関わらず、4月の契約更改は混乱なく実施されました。特約再保険料の収入は4%増、損害再保険事業の名目保険料率は8%増となり、特に日本の暴風リスクについては50%増と顕著に上昇しました。リスク調整後の累計適正料率は、金利低下と損失想定を大幅に調整したことにより、横ばいとなりました。

生命・医療再保険事業の ROE は目標範囲を上回る

2020年第1四半期の生命・医療再保険事業の純利益は、堅調な引受と投資成績を反映して2億9,900万米ドルとなりました。スイス・リーがアジア市場において業界最大級の拠点を有していることを考えると、当四半期で新型コロナウイルスによる保険金請求(死亡率または重大疾病のいずれについても)に大きな影響が出ていないことは注目に値します。当部門は、既存リスクの管理および新たなソリューションの開発に向けて、お客様との密接な連携を続けています。

ROEは15.8%で、目標範囲の10~12%を大幅に上回っています。正味既経過保険料および手数料収入は、2019年第1四半期の31億米ドルから34億米ドルへと増加しました。

コーポレート・ソリューションズは順調に回復

当四半期において、コーポレート・ソリューションズは1億6,700万米ドルの純損失を計上しました。これは新型コロナウイルス危機に関連する保険金請求の準備金が2億2,300万米ドルに達したことによるものです。この損失の大部分は、興行中止に関して予想される保険金請求に備えて計上された準備金です。コーポレート・ソリューションズは、昨年発表した再建計画において、興行中止保険事業から撤退することを決定しています。

コーポレート・ソリューションズの新型コロナウイルスの影響を除いたコンバインド・レシオは103.2%となり、前年同期に比べ13%ポイント改善しました。当部門は、新型コロナウイルスによる影響を除いた平準化調整後²のベースでは、2020年の予想コンバインド・レシオ105%の達成に向けて順調に進んでいます。

2019年の力強い料率上昇基調は第1四半期も継続し、コーポレート・ソリューションズは13%の料率上昇を達成しています。現在の市場環境によりこの傾向は今後も継続すると見られます。

ライフ・キャピタルは Phoenix Group の株価下落によるマイナスの影響を受けるも、オープンブック事業は成長を維持

ライフ・キャピタルは、2020年第1四半期に2億6,100万米ドルの純損失を計上しました。これはほぼすべて、公表済みの ReAssure 社売却に関

¹新型コロナウイルスによる影響および前年度の準備金の推移を考慮せず、平均的な大規模自然災害に伴う損失負担を想定したもの。

²新型コロナウイルスによる影響および前年度の準備金の推移を考慮せず、平均的な大規模自然災害に伴う損失負担を想定したもの。

して、Phoenix Group Holdings plc の株価下落による評価損(税引前 2 億 5,100 万米ドル)が生じたことによるものです。この影響は、英国株式市場に対するヘッジによって部分的に相殺されました。ReAssure 社の売却は順調に履行されており、規制当局と競争当局の必要な承認を得ることを条件に、2020 年半ばに完了する予定です。

ライフ・キャピタルの正味保険料および手数料収入は、市場環境を反映した手数料収入の減少により、2019 年第 1 四半期の 5 億 4,800 万米ドルから 4 億 9,700 万米ドルへと減少しました。為替変動の影響を除くと、オープンブック事業の総収入保険料は前年同期比で 20%伸びました。

今後の見通し

スイス・リー・グループの最高経営責任者であるクリスチャン・ムーメンターラーは次のように述べています。「新型コロナウイルスのパンデミックは終息の見通しが立たないため、経済と社会全体への影響は広範囲にわたると思われます。私たちの業界は、この危機による痛みの一部を吸収するという重要な役割を担っています。スイス・リーは、引き続きお客様のために途切れることなく事業を継続し、強力な資本力に基づく柔軟性を活用してまいります。当社は、積極的な貢献ができるものと確信しています。長期的には、この難局から教訓を学び、今後社会がこうした大規模な破壊的事象にうまく対応できるようにするために、官民連携による解決策を模索することが必要になるでしょう。」

2020 年第 1 四半期の業績詳細

		Q1 2019	Q1 2020	Q1 2020 新型コロナウイルス による影響を除く ³
グループ 連結(総額)	正味既経過保険料 および手数料収入 (百万米ドル)	8 933	9 586	
	純利益(百万米ドル)	429	-225	158
	株主資本利益率 (%、年率換算)	5.9	-3.1	2.2
	投資収益率 (%、年率換算)	4.5	3.2	
	直接利回り (%、年率換算)	2.9	2.5	
		31/12/19	31/03/20	
	株主資本 (百万米ドル)	29 251	27 979	
	普通株 1 株当たりの 簿価(米ドル)	100.64	96.82	
		Q1 2019	Q1 2020	Q1 2020 新型コロナウイルス による影響を除く
損害再保険	正味既経過保険料 (百万米ドル)	4 238	4 737	
	純利益(百万米ドル)	13	61	272
	コンバインド・レシオ(%)	110.3	110.8	105.5
	株主資本利益率 (%、年率換算)	0.6	3.0	13.2
生命・医療 再保険	正味既経過保険料 および手数料収入 (百万米ドル)	3 127	3 366	
	純利益(百万米ドル)	328	299	
	直接利回り (%、年率換算)	3.4	3.1	
	株主資本利益率 (%、年率換算)	19.6	15.8	
コーポレート・ ソリューションズ	正味既経過保険料 (百万米ドル)	1 020	986	
	純利益(百万米ドル)	-55	-167	5
	コンバインド・レシオ(%)	116.3	125.8	103.2
	株主資本利益率 (%、年率換算)	-12.1	-35.1	1.0
ライフ・ キャピタル	正味既経過保険料 および手数料収入 (百万米ドル)	548	497	
	純利益(百万米ドル)	7	-261	
	株主資本利益率 (%、年率換算)	0.5	-21.1	
	総収入保険料 - オープ ンブック事業 (百万米ドル)	1 148	1 356	

³ この列は参照のみを目的として、新型コロナウイルス関連の保険金支払請求に備えて計上した準備金(税金の概算を含む)による影響を除いたもの。

スイス・リーについて

スイス・リー・グループは世界のレジリエンス向上を目指し、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。自然災害および気候変動、また高齢化社会からサイバー犯罪に至るまで、さまざまなリスクの予想と管理を行っています。スイス・リー・グループの目標は、お客様のために新しい機会とソリューションを生み出し、社会のさらなる繁栄と発展を可能にすることです。1863年にスイスのチューリッヒで創業したスイス・リーは、世界約80拠点にて事業を展開しています。大きく3つの事業部門に分かれて運営を行い、それぞれの事業部門がグループ全体の理念に寄与する独立した戦略と目標を掲げています。